

平成26年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

久米島町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H26成果目標(指標)	備考	
パ	細				H26事業内容	H26活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
1			久米島農林水産業活性化推進事業	H24 ～ H33					
			海洋深層水冷熱利用野菜栽培実証事業	H24 ～ H29	久米島の地域資源である海洋深層水の冷熱利用により、既に確立された夏場の野菜栽培技術の商用化に向けた実証実験を行う。	・実証施設の整備 ・実証実験	10アール当たりの収穫量把握 生産コスト等の課題抽出	平成27年度実用化開始 平成27年度からは新たな方式による実証事業を行う。	
			漁港施設機能強化事業	H25 ～ H27	本町の基幹産業である水産業の振興を図るため、主要3漁港にセルフ式給油施設POSシステム導入及び主要漁港の一つである大田漁港に漁船巻上げ機(ウインチ)を設置する団体へ支援を行う。	給油施設POSシステム(3基)の導入 漁船巻上げ機(1基)の導入	給油施設POSシステム整備率100% 巻上げ機整備率33%	平成27年度供用開始 給油施設導入による利便性の向上及び荒天時(台風等)に大型漁船を避難できる体制を整備し、漁民の労働負担や経費負担を軽減する。	12月変更 (計画変更に伴う事業内容、各目標変更)
			モズク加工場機能強化事業	H24 ～ H26	本町水産業の主要品目であるモズクの加工施設の強化を図り生産性の向上につなげるため、モズクの品質向上と適正な衛生管理に必要な洗浄機の整備を行う団体へ支援を行う。	モズクカゴ洗浄機(1基)の導入	モズクカゴ洗浄機利用組合員数:24名	平成27年度供用開始	
			久米島町循環型農業促進事業	H25 ～ H27	本町の地域資源を有効活用した循環型農業の構築するため、町営堆肥センターの生産性の向上を図り、堆肥活用促進の機能強化を行う。	・自走式破砕機(1台)の導入	・自走式破砕機による副資材の割合:10% (基準年:H25年度 0%)	(今後の展開方針) H27年度 運搬車両の導入 自走式ふるい機の導入 堆肥筋播き機の導入	
			優良雌牛導入事業	H26 ～ H33	本町の繁殖雌牛の生産基盤の拡充・改良を促進し「くめじま牛」のブランド化を図り畜産業の振興につなげるため、優良遺伝繁殖雌牛の導入事業を行う団体へ支援を行う。	・優良雌牛導入 30頭	・優良雌牛導入率:13% (導入予定:240頭)	(今後の展開方針) 助成件数(累計) H33年度:240頭	
			農産物出荷貯蔵施設整備事業	H26	本町の輪ギクは拠点産地として認定され振興を図っているが、出荷商品の品質保持のため花卉園芸用冷凍庫ユニットの機能強化する。また、露地野菜の生産体制強化を図るためプレハブ冷凍庫の設置を行う。	・花卉用冷凍庫ユニットの整備 3台	・出荷商品の品質保持体制の確立	平成27年度供用開始 冷蔵保管により商品の品質を保ち出荷し農家所得向上に繋げる。 輪ギクだけでなく露地野菜の出荷体制を強化するため、整備を進める。	12月変更 (計画変更に伴う各目標変更)
			農産物直売所整備事業	H26	本町の農産物の地産地消を推進し農業の振興に繋げるため、余剰農産物・規格外農産物を集約し供給する直売所の整備を行う団体へ支援を行う。	農産物直売所の整備	農産物直売所利用農家数:8戸	(今後の展開方針) H27年度 供用開始 利用農家を増やし地産地消及び農家所得向上に繋げる。	

H26活動目標(指標):平成26年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものの。

H26成果目標(指標):平成26年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成26年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

久米島町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H26成果目標(指標)	備考	
パ	細				H26事業内容	H26活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			くめじま山羊振興活性化事業	H25 ～ H27	本町の山羊食文化及び山羊肉の地産地消の推進を図るため、優良品種山羊の導入と普及、山羊牧場の建設、「くめじま山羊」のブランド化を確立し全町的な肉用山羊生産供給体制の整備を行う。	優良山羊の導入(雄3頭、雌20頭) 山羊舎実施設計、建設、機械購入	優良山羊生産頭数40頭 優良品種山羊生産体制の強化 山羊舎の整備完了	(今後の展開方針) 整備した山羊舎にて優良山羊を増頭し、普及を図る。大手食肉業者と連携し、販売ルートを構築することで安定した山羊の出荷を行い、農家の所得向上に繋げる。	7月変更 (事業追加)
2			久米島特産品開発・販路開拓事業	H24 ～ H33					
			久米島紬販売促進事業	H24 ～ H33	久米島紬の付加価値を高め販路拡大を図るため、消費者ニーズに即した商品開発や新商品の展示会やファッションショーの開催、問屋呉服店への販即訪問等を支援する。	島外での展示会開催数 6回 商品開発試作品製作数 5反 商品開発試作品製作数(ウエア) 4点	・反物売り上げ額 7,000万円 ・小物売り上げ額 1,000万円	久米島紬の伝統技能を保持しつつ現代のニーズにあった商品を開発販売することにより、伝統工芸品としての久米島紬を受け継いでいく。	
			海洋深層水全国展開事業	H24 ～ H28	海洋深層水関連商品の販路拡大を図るため、首都圏において開催される商談会への参加及びPR用パンフレットの作成を行う。	・商談会への参加社数 2社 ・パンフレットの配布数 500部 ・商談会面談者数 200名	・商談会面談者数 200人 ・商談(取引)成立数 3件	県外の販路開拓を行える体制を構築する。	
			久米島特産品販路開拓事業	H24 ～ H27	本町特産品の販路拡大及び若手後継者の育成を図るため、流通・商品開発専門の外部アドバイザーやコーディネーターを配置し新商品の開発や既存商品のデザイン等の改良等を行う他、知名度向上のため県内・県外での開催される物産展への定期的な出店やビジネス戦略等の研修会等を実施する。	・アドバイザー・専門家等の派遣 延べ35回 ・講習会・勉強会の開催 14回 ・新商品開発 11品、既存商品の改良9品 ・物産展の開催又は参加 5回	・特産品の新商品開発 9品 ・乳酸菌を有効活用した新商品の開発 2品 ・物産展等における販売額 20,000千円	・3年計画で、久米島の製造事業所の支援を行う。 ・本事業で開発された商品のブランド化に繋げる。	
3			久米島観光誘客促進事業	H24 ～ H33					
			久米島観光誘客支援事業	H24 ～ H33	久米島の良さを効果的に伝え観光客の誘客を促進するため、島の魅力を活かした旅行商品の企画、各種イベントの開催や広報活動等を実施し、観光産業の振興を図る。	イベント開催(4件) 広報推進事業 広報活動 7件 修学旅行営業 10校 バスツアー造成 団体型34ツアー/ 個人型92ツアー	参加人数1,000名 広報推進事業 広報活動 7件 / 久米島の認知度向上 修学旅行誘致 4校 バスツアー利用者数 2,020人	イベント開催 H28年度(中間年)参加者 1,100人 H33年度(最終年)参加者 1,300人 バスツアー利用者 H28年度(中間年)2,180人 H33年度(最終年)2,600人 修学旅行 H28年度(中間年)誘致目標 10校 H33年度(最終年)誘致目標 20校	7月変更 (計画変更に伴う各目標変更)

H26活動目標(指標):平成26年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H26成果目標(指標):平成26年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成26年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

久米島町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H26成果目標(指標)	備考	
パ	細				H26事業内容	H26活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			久米島観光プロモーション事業	H25 ～ H33	本町の観光誘客の課題である知名度不足の解消を図るため、観光ビデオ制作や大手IT企業を活用した観光プロモーションを実施する。	・国内大手の旅行及び宿泊予約サイトを活用した誘客促進 ・観光PR映像を活用した誘客促進	・情報発信件数：4件 ・PR映像製作件数：2件	国内大手のWEBエージェントにて久米島の春夏秋冬の情報を4回発信し、情報の拡散効果を図るためFacebookも活用する。	
			体験交流型観光商品開発販売促進事業	H26 ～ H28	本町の観光入域客数を増加させ観光産業の振興を図るため、修学旅行受入促進のための旅行商品の開発、販売促進事業を実施する団体へ支援を行う。	・民泊の営業許可の取得件数 30件 ・体験プログラム・開発・改良件数 20件	・修学旅行入域者数 400人 ・体験プログラム利用者数 1,200人	修学旅行 H28年度(中間年)入域目標 2,600名 H33年度(最終年)入域目標 8,000名	
			スポーツ合宿誘致事業	H26 ～ H33	観光客が減少する冬季の誘客促進を図るため、スポーツ合宿の誘致活動を実施し、スポーツコンベンションの推進を図る。	陸上合宿誘致 パークゴルフ大会誘致	陸上合宿 4件 パークゴルフ大会 1件(島外参加者数100人)	温暖な気候を生かした冬季におけるスポーツ合宿やパークゴルフ大会を誘致する。 H28年度 19件(継続を含めて)	7月変更 (事業追加)
			航空路線拡充対策事業	H26 ～ H33	伸び悩む観光入域誘客の増加に繋げるため、チャーター便や新規航空会社の誘致を行い、航空路の充実・強化を図る。	久米島空港におけるチャーター便への給油体制の整備及び新規航空会社誘致の調査活動	チャーター便運行数 17便 新規航空会社のニーズの把握	H33年度(最終年) チャーター便数 20便 新規参入航空会社 1社	10月変更 (事業追加)
4			久米島観光客受入体制整備事業	H24 ～ H28					
			スポーツコンベンション施設機能強化事業	H24 ～ H26	プロスポーツ等のキャンプ誘致を促進し観光産業の振興を図るため、現在、受入施設として使用している、久米島多目的グラウンド及び仲里野球場関連施設の整備を実施する。	仲里野球場ネット改修工事 久米島多目的グラウンド改修工事	仲里野球場施設使用 4団体 久米島多目的グラウンド 2団体	H26年度供用開始 スポーツ関連施設を充実させ、プロスポーツ等キャンプの継続及び新規誘致に繋げる。	
			安心安全な観光まちづくり事業	H25 ～ H28	安心安全な観光まちづくりを目指し、津波被害対策として緊急避難階段等の整備を行う。	避難階段工事L=70mの実施	避難階段を設置し、避難経路を確保する。	(今後の展開方針) H27年度：避難所及び避難道の測量設計調査 H28年度：避難所及び避難道の整備	
			バス停上屋整備事業	H26 ～ H28	快適な観光地づくりを目指し、観光施設周辺のバス停の雨天及び直射日光の強い日差し対策としてバス停上屋の整備を行う。	バス停上屋を2カ所整備	バス停上屋整備率：33% (整備予定：6カ所)	(今後の展開方針) H27年度：2カ所 H28年度：2カ所	

H26活動目標(指標)：平成26年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを記載している。

H26成果目標(指標)：平成26年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを記載している。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成26年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

久米島町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H26成果目標(指標)	備考	
パ	細				H26事業内容	H26活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			ビーチクリーナー整備事業	H26	本町の自然景観を代表し日本の渚百選に選定されているイーブビーチ等の環境美化を促進し観光産業の振興を図るため、ビーチクリーナーを導入する。	ビーチクリーナーの導入	・ビーチクリーナー導入:1台 ・ビーチ清掃回数:10回	H26年度供用開始	
			自動運転実証フィールド支援事業	H26 ~ H28	人が運転せずとも自動車(モビリティ)の走行を制御できる自動走行技術の実証フィールドを整備し、観光産業などに活用するため、関連施設の整備を行う。	走行用道路の測量・設計 走行用道路の改良工事	走行用道路の整備:L=510m	H27年自動走行実証事業開始	
			Wi-Fiアンテナ設備導入事業	H26	ICTによる観光客の受け入れ態勢の構築、産業観光への取組、安心・安全な街づくりによりを図るため、全島Wi-Fiシステムを構築した。このシステムを継続活用するためWi-Fiアンテナを購入する。	Wi-Fiアンテナ購入:21基	スポットアクセス数:2,000件	ICTを活用し情報格差を埋め、島の魅力発信を図る。	
5			久米島環境保全・美化推進事業	H24 ~ H33					
			赤土等流出防止対策事業	H24 ~ H28	農地保全是もとより観光資源である海岸の保全を図るため、裸地状態の畑へグリーンベルト(ベチパー)の植栽や増殖を行うとともに、排水路に堆積した赤土のしゅんせつ等を実施する。	ベチパーの植栽を行い赤土流出防止を図る。	ベチパー植栽:1,000m	H27年度:1,500m H28年度:1,500m	
			球美の島エコアイランド化推進事業	H24 ~ H28	低炭素島しょ社会の実現と自然豊かな環境に配慮した島づくりの推進を図るため、町内に設置されている水銀街灯のLED化事業等を実施する。	約230灯のLED防犯灯を整備・設置	約230灯のLED防犯灯を設置	H27年度:400灯設置 H28年度:400灯設置	
			球美の島緑化推進事業	H24 ~ H27	久米島に自生している花や花木(クメノサクラ、ツツジ、椿、ショウキズイセン等)の保全を図るために、島の在来花木を年中楽しむことができる公園整備を実施する。	・サクラゾーン造成及び植栽工事の実施 ・ツツジゾーン、ツバキゾーン造成工事の実施	サクラゾーンの完成及び一部供用開始 ツツジゾーン、ツバキゾーン造成工事の完了	平成27年度ツツジゾーン、ツバキゾーンの完成 平成28年4月全面供用開始	
6			久米島地域資源発掘・活用促進事業	H24 ~ H33					

H26活動目標(指標):平成26年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたものを、

H26成果目標(指標):平成26年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものを、なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成26年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧【公表版】

久米島町		事業番号	事業名	計画期間	事業概要		H26成果目標(指標)	備考	
パ	細				H26事業内容	H26活動目標(指標)		今後の展開方針等	補足説明等
			沖縄らしい風景づくり推進事業	H24 ～ H33	本町の優れた景観を次世代に受け継ぎ独自の景観形成を推進するため、行政担当者のスキルアップを図り、町景観条例に基づく景観形成に取り組む団体及び個人が実施する屋根等の外観の景観形成に有効な部分の新設及び改良に要する経費の一部を助成する。	・県内研修2回、県外研修2回 ・景観活動団体助成2団体 ・景観形成助成2戸	・行政担当者の育成 ・景観活動団体の育成 ・景観形成の推進	(今後の展開方針) 助成件数(累計):H33年度 ・景観活動団体助成 18団体 ・景観形成助成 18戸	
			個性豊かな文化の振興事業	H24 ～ H33	伝統芸能の保存及び後継者育成を推進し地域伝統文化の振興を図るため、文化振興の活動を行っている団体の行う保存継承イベント開催を支援する。	・民俗芸能の保存・継承・後継者育成 ・民俗芸能発表会の開催 ・民俗芸能団体の派遣	・3団体(具志川、大田、真謝)の強化 ・出演者130名、来場者600名 ・団体の島外派遣(兼城)24名	団体の振りおこし ・H28年度 育成団体 累計22 ・H33年度 育成団体 累計27 発表会出演団体数 ・H28年度 累計41 ・H33年度 累計81	
			文化遺産保存活用事業	H24 ～ H33	豊かな自然とともに、数多く残されている地域色豊かな歴史文化等の文化遺産を活かした観光振興を図るため古文書(博物館資料)の修復及び貴重生物のはく製の制作を行う。	・古文書の修復、翻刻、口語訳した件数:110件 ・鳥類剥製資料制作 50体	・古文書の修復、翻刻、口語訳した割合14% (1625件中232件(累計)の修復) ・鳥類剥製資料制作 50体	H28年度(中間年) 修復、翻刻、口語訳した割合40% H33年度(最終年) 修復、翻刻、口語訳した割合100%	
			久米島現代版組踊り創作事業	H24 ～ H28	若い世代の地域づくりへの積極的な参画を促進し魅力ある観光地形成を図るため、久米島の歴史的遺産にスポットをあてた創作現代版組踊りを実演する。	若い世代による創作現代版の組踊り作成 40名～50名参加	・ふるさとの歴史や文化を地域の人々が再発見し、その誇りと魅力を自発的に発信していく新たな歴史的文化観光資源を創出する。	久米島でのイベント等での公演や島外での公演を行なうことで久米島の魅力のアピールを行なう。中高校生が文化の担い手として文化歴史を紹介するガイドの育成に繋げる。	
7			久米島教育環境の充実・整備事業	H24 ～ H33					
			英語指導員配置事業	H24 ～ H33	小学校における外国語活動及び国際理解教育を充実させるために英語指導員を配置する。	英語指導員配置数:小学校1名 小学校3年生から6年生(3、4年生120時間、5、6年生210時間)で実施する。	英語指導員の配置 小学校:1名 町内全6小学校の児童が英語を活用してコミュニケーションを図る。	中学校の外国語教諭と連携を密にし授業改善(内容・単語・センテンス等)について検討する。	
			基礎学力向上学習支援員配置事業	H26 ～ H33	確かな学力を身につける教育の推進を図るため、学習未定着率の高い小学校へ補助指導員を配置し、国語・算数を中心とした基礎学力向上支援を行う。	基礎学力向上学習支援員配置数:小学校2校に各1名。	基礎学力向上学習支援員を小学校へ2名配置し、県到達度調査や全国学力学習状況調査等、正答率30%未満の児童生徒の数を減少させる。	担任と学習支援員が連携を密にし、授業改善(内容、発展等)について検討する。	
			特別支援教育支援員配置事業	H26 ～ H33	特別に支援を要する児童に対し個別指導や放課後の補習、介助や安全確保等教師と連携した支援体制の充実を図るため、特別支援員を各学校へ派遣する。	特別支援教育支援員配置数:小学校10名、中学校2名	児童生徒の総合的な学力向上に繋げる。県到達度調査や全国学力学習状況調査等、正答率30%未満の児童生徒の数を減少させる。	担任と特別支援教育支援員が連携を密にし、授業改善(内容、基礎力徹底等)について検討する。	

H26活動目標(指標):平成26年度における当該事業の主な取組又は事業量をあらわしたもの。

H26成果目標(指標):平成26年度における当該事業の実績や成果をあらわしたもの。なお、成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。